

つながり

平成27年度活動報告書 Vol.2





彦根ばやし総踊り

「つながり」・・・

地域連携交流センターでは、地域とのつながりを
より強固にしていきたいという願いから
活動報告書を「つながり」というタイトルにしました。

もくじ

理事長・学長 ご挨拶

地域連携交流センター長 ご挨拶

1. 地域連携交流センターの概要	5
2. 教員の研究と地域交流	
①人間学部	8
②看護学部	10
3. 大学教育と地域交流	
①人間学部（カリキュラム内での活動）	12
②看護学部（カリキュラム内での活動）	13
4. 学生の地域交流とボランティア活動	
①学生の地域活動一覧	14
②ボランティア活動報告	15
5. 地域で育ち社会の一員へ	
①人間学部	16
②看護学部	17
6. 平成 27 年度公開講座	
①ナイチンゲールの看護思想	18
②地域包括ケアを進めるために	19
③子どものあそびについて	20
④ツレがうつになりまして	21
⑤世界と戦うジュニアジャパンの育成	22
7. 大学附属施設の機能・概要	23
8. 平成 28 年度事業計画	25





理事長・学長

つつ い さち こ
筒井 裕子

地域連携交流の一つは、公開講座やセミナーなどを通して、交流が盛んになり、地域の方々のご意見も伺いながら交流が発展できればと考えております。

近年、大学は、地域とのつながりを重視し、大学が持つ研究成果などを地域へ還元するとともに、学生や教職員と地域の方々と共に学ぶことで、文化・伝統や経済活動など地域の良さや強みを発見し、地域創生へ発展できればありがたいと願っております。

また、地域で学んだ学生が、地元へ就職し、若い力を発揮するには、学生が目的を持って、主体的活動であるアクティブラーニングによって、学びを深める必要があります。

さらに、地域とのつながりから、学生の実体験を通して、新たな資源開発や経済活動などが、発展することを願っています。

本学は地域連携交流センターを起点に、昨年から、米原市や他の市町とも協定を結びつつあります。また、いくつかの高校とも協定を結び、本学の人材や施設を活用し、交流が深まることを願っています。



地域連携交流センター長

はだま ふみひこ
間 文彦

聖泉大学地域連携交流センターは、本学の建学の精神と教育理念である「人間に対する理解を深め、広く社会と地域に貢献できる人材を育成すること」を実現するため、そして、地域連携及び産学官連携の総合窓口として、地域社会の発展に寄与する事を目的に、平成 25 年 10 月に聖泉大学附属施設として開設され、平成 27 年度 3 年目を迎えました。

地域連携交流センター活動報告書は、地域と大学のつながりをより強固にしていきたいという願いから「つながり」というタイトルに致しました。本学教員の研究・地域活動を広く地域の人に知っていただき、地域に還元できることを願い、平成 26 年度から活動報告書「つながり」を発刊致しました。本年も引き続き第 2 刊を発刊することとなりました。

是非「つながり」をご覧ください、大学の附属機関の機能・概要をご活用していただきたいと思います。また、平成 27 年度、公開講座 3 回開催いたしました。平成 28 年度の公開講座といたしまして、2 シリーズ 6 回の講座を予定しております。多くの方の参加をお待ちしております。

今後も大学と地域の交流を促進し、地域社会の発展に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

地域連携交流センターの概要

地域連携交流センターは、平成 25 年 10 月に聖泉大学の附属施設として開設され、本年度で 3 年目を迎えております。

1 センターの目的

聖泉大学の地域連携及び産学官連携の総合窓口として、地域住民、NPO、行政、医療機関、企業等との連携を深め、本学が有する人的資源及び教育研究成果を広く地域に還元するとともに、地域社会の発展に寄与することを目指しております。

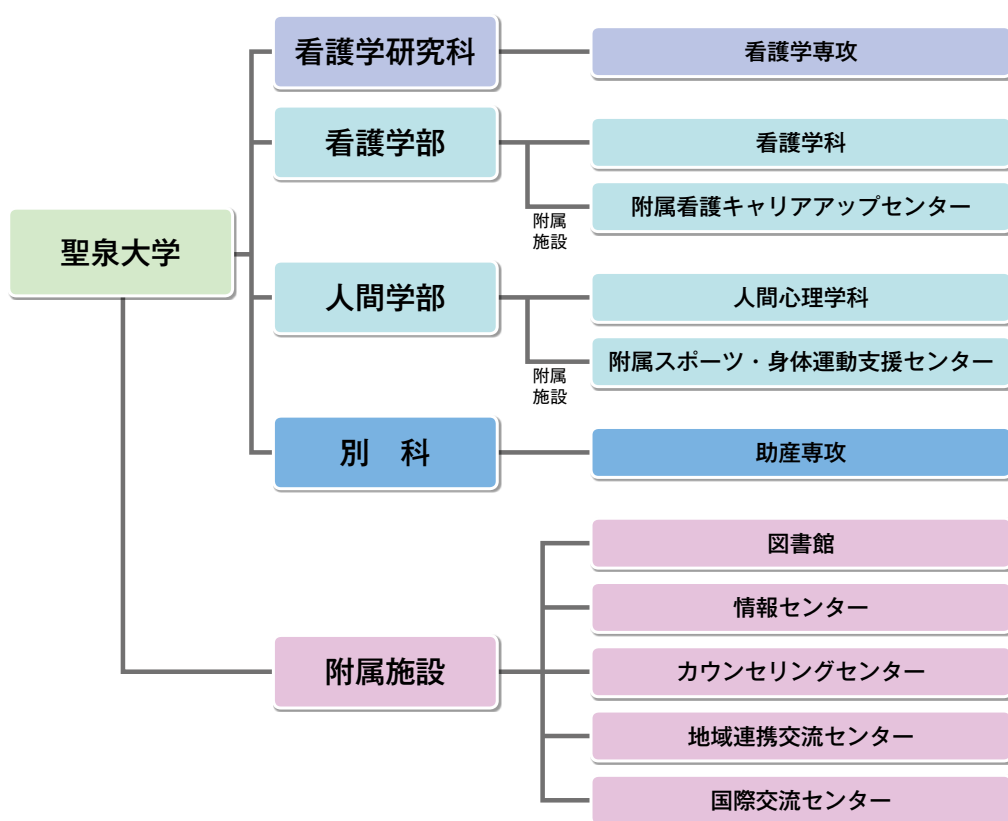
2 センターの業務・機能

地域社会の諸活動に対する専門的な支援や、
地域課題に係る調査研究の調整、受け入れに関すること

地域連携及び産学連携等に係る受託研究、
共同研究、奨学寄付金に関すること

地域連携及び産学連携等に係る人的交流、
情報収集及び発信に関すること

3 組織構成



4 平成 27 年度の年間活動内容

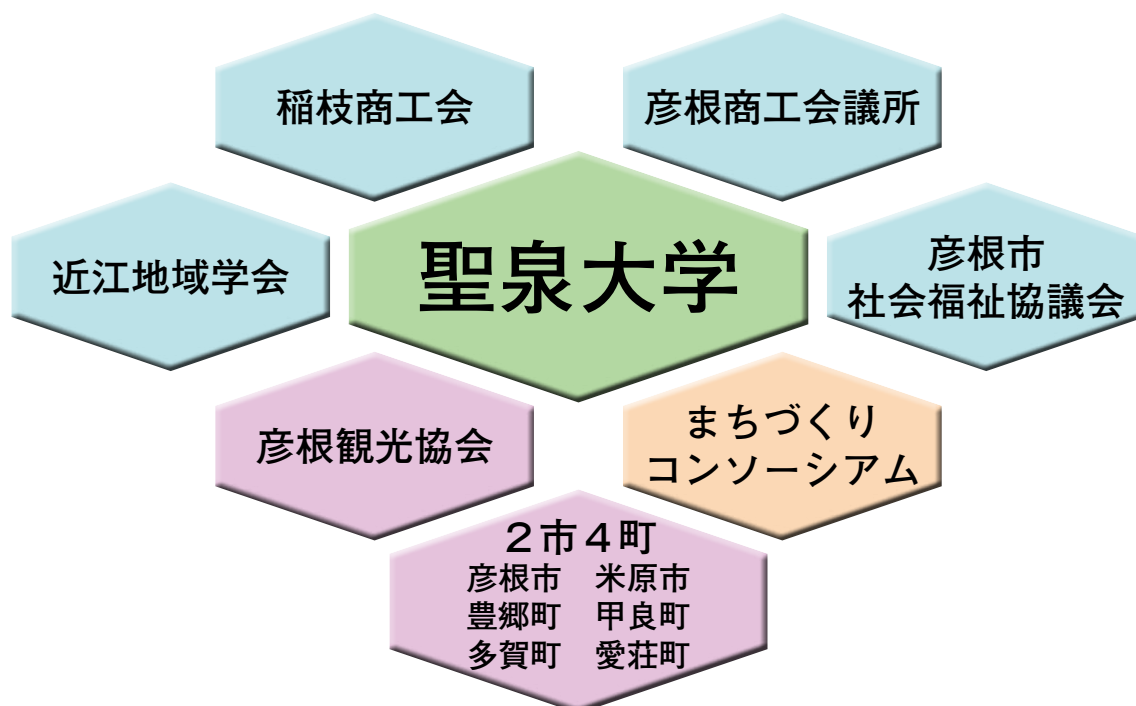
月	地域連携・産学連携・公開講座	調査・研究・その他
4		定例委員会会議（毎月開催）
5		
6	平成 27 年度第 1 回公開講座「ナイチンゲールの看護思想」	
7	近江地域学会総会参加	平成 26 年度活動報告書発行
8	平成 27 年度第 2 回公開講座「地域包括ケアを進めるために」	
9		
10	平成 27 年度第 3 回公開講座「子どものあそびについて」	
11	平成 27 年度第 4 回公開講座「ツレがうつになりまして」 米原市と連携協定締結	
12		
1		
2	平成 27 年度第 5 回公開講演「世界と戦うジュニアジャパンの育成」	
3		

5 平成 27 年度地域連携交流センター委員会構成

	氏 名	職 名
センター長	間 文彦	看護学部准教授
委員 (各学部から 2 名)	富川 拓	人間学部准教授
	多胡陽介	人間学部講師
	磯邊厚子	看護学部准教授
	安田千寿	看護学部准教授



6 連携する地域・団体など



平成 27 年度は新たに米原市と連携協定を結びました。

聖泉大学と米原市は、11月26日(木) 相互の発展に資するため、地域に係る医療・福祉・心・健康・文化等の分野で連携協定を締結しました。

<連携協力事項>

- (1) 地域に係る医療・福祉・心・健康・文化等に関する事業
- (2) 地域の活性化に関する事業
- (3) 学校教育および生涯教育に関する事業
- (4) 人材育成に関する事業
- (5) その他、双方が協議して必要と認める事業

具体的には、ホッケー部の選手が米原市の小中学校でホッケー教室や、米原市とプロジェクト演習を通じて若者の投票率アップに取り組みました。

今後は、米原市には介護や看護分野のインターンシップの受入や新規就農希望者の受け入れを行っていただく予定です。地域の課題を解決する人材を活用する市と地域貢献を目指す大学とが相互の関係を深めるために今後の取り組みが期待されています。



教員の研究と地域交流

人間学部 講師

森 雄二郎

多文化共生を育む教育実践から
「すべての人が対等に生きる社会」を目指して



「国際感覚に優れた人材の育成を」

先生が取り組まれている地域活動には、どのようなものがありますか？

現在、彦根市より「国際理解教育推進事業」の委託を受けています（平成24年度～）。この事業は、彦根市のほか、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町で構成される湖東定住自立圏の人材育成に関する事業の1つで、圏域の小中学校や関係機関において、国際理解をテーマにした出前授業を開講したり、そのための教材開発などを進めています。

世界中のモノや人、情報が世界規模でつながり、結びつきが強くなる（グローバル化）中で、世界の国

の文化や人々の暮らしを自分たちの生活からかけ離れた“遠いこと”として学ぶのではなく、「同じ社会に生きる隣人として、どのように付き合い、関わっていくのか」もっと“身近なこと”として捉える必要があります。

どのようにすれば、子ども達が世界のことを自分事として考えられるようになるか、多角的な教育手法やアプローチを生み出すことも、この事業の課題だと考えています。

「お互いの違いを認めあい、 ともに生きる力」

具体的には、どのような授業を展開しているのですか？

私が積極的に取り入れているのが、学習者同士が話し合ったり、協働して取り組むワークショップ型の授業です。多様な文化や考え方を理解するということは、単に知識を授けたり、正しい答えを導くことだけでは不十分です。ある意味で、自分が正しいと思っていることが、他の人にとっては正解でなかったり、その異なる考え方とどう折り合っていくのかを考えてほしいわけです。

そのために、なるべく一人ひとりの意見が異なるテーマ設定をするようにしています。例えば、世界の人々の生活の様子を描いた写真教材を子どもたちに見せた





します。「どこの国の人たちでしょう?」という問題よりも「あなたたちが、その国に行ったとすると、どんなことが楽しみですか?(あるいは、どんなことに困りそうですか?)」と言った問題を出します。そうすると、様々な意見が飛び出して、答えがまとまることはありませんが、それこそが多様性だと思っています。

ただ、子どもたちは、すぐに答え(正解)を知りたい傾向があって、納得がいかないと言い争いになって騒がしくなることも多いです。本来、進行役としては、その辺りをコントロールすることが求められているのかもしれませんが、私は結構ほったらかしにします。時々、先生には申し訳ないと思うこともありますが…(笑)。

「多様な人や文化が 社会を豊かにしてくれる」

その他には、どんな活動をされていますか?

私の研究テーマの一つに「どうすれば、地域の多文化共生を推進できるのか」ということがあります。現在、日本には200万人以上の外国人が暮らしています。私が勤務する彦根市でも約2000人もの外国人住民がいて、それぞれの来日背景は異なりますが、様々な分野・領域で、社会の担い手として活躍してくれています。

しかし、彼らを取り巻く環境は必ずしも恵まれたものではなく、私たちが当たり前のように過ごしている日常の場面でも、不自由を感じていたりします。言葉の壁だけでなく、就労、子どもの教育など、様々な問題を抱えています。そうした外国人住民の問題に目を向けることは、彼らにとってだけでなく、結果として私たちの社会を豊かにし、誰もが支え合える関係を築くことに繋がっていくのだと考えています。

具体的な活動としては、滋賀県国際協会が主催する「外国にルーツを持つ子どもへの教育支援事業」の運営委員を平成24年度から務めさせていただいていま

す。この事業は、県内の外国籍・外国にルーツを持つ子どもを対象として、彼らが具体的に社会で生きていくイメージを持ち、主体的な人生設計を促すことを目的としているのですが、同時に受け入れる私たちの意識も変えていこうというものです。

イベントの一つである「職業人と語る会」では、様々な職業を持った社会人と交流してもらっているのですが、実際にそこで出会った職業人に憧れて、専門学校への進学を決めた学生がいたり、職業人の方々にも彼らの存在を知ってもらう機会となっていて、少しずつですが、成果が上がっています。



「すべての人が 対等に生きる社会を目指して」

最後に一言…

私は、対象が日本人であれ、外国人であれ、伝えたい想いは一つです。それは、「国籍や価値観、考え方が異なっても、みんな同じ社会の構成員である」と言うことです。世界で起きていることも、地域社会で起きていることも、全てつながっていて、無関係では済まされない。その多様性を認めつつ、どうやってともに生きていくのか。

これは、子どもも、女性も、高齢者も、障害を持つ人も、すべての人が対等な関係の社会を築いていくことであり、そうしたメッセージを様々な現場で発信していきたいと思っています。



もり ゆうじろう
森 雄二郎

聖泉大学人間学部人間心理学科 講師
1977年生まれ 京都府出身

聖泉大学人間学部人間心理学科 講師 1977年生まれ 京都府出身
滋賀県立大学人間文化学部卒業(2000年)、
滋賀県立大学大学院人間文化学研究科博士前期課程修了(2002年)
[主な社会活動]
彦根市国際理解教育推進事業 受託(2012年～)
彦根市多文化共生推進プラン策定委員会 委員長(2016年)

教員の研究と地域交流

看護学部 教授

流郷 千幸



「子どもの心理的準備を促す援助 ープレパレーションー」

プレパレーション検討会立ち上げの経緯について
教えてください

小児看護学領域では、開学当初から滋賀県内の看護職の皆さんと「プレパレーション検討会」を開催しています。プレパレーションとは、「治療や検査を受ける子どもに対し、認知発達に応じた方法で病気や検査、治療などについて説明を行ない、子どもの心理的準備を促す援助」のことです。我が国が1994年に児童の権利条約に批准した後、2000年頃より、医療を受ける子どもにおいてもその権利が保障されるべきとされ、プレパレーションの概念が急速に普及しました。大人が手術や検査を受ける際には、インフォームド・コンセントが定着しており、十分な説明により同意を得ることは当然のように行なわれています。しかし、対象が子どもになると、説明してもわからない、混乱



を招くといった理由で、親にのみ説明が行なわれ、子ども本人には説明がなく、了解を得ることなく医療が進められるという現状があります。「プレパレーション」という概念が導入されたことで、子どもに分かる方法と内容で、これから行なわれることを説明し、同意を得る（アセント）ことが求められるようになりました。2000年当初に行なわれた研究では、小児と関わる看護師のプレパレーションの認知は14%でした。2005年に私たちが調査したときには39%、2010年に調査されたものでは71%でした。看護職の方々のプレパレーションの認知は、年々増加傾向にはありますが、その内容について十分理解されているとは言えない状況であったことから、「子どもへのプレパレーション」の普及・発展を目的とし、当検討会を立ち上げることにしました。

「子どもにも分かる方法と内容で これから行われることを説明し 同意を得る」

どのような活動をされているのか具体的な内容を
教えてください

2011、2012年には、滋賀県内の3施設に出向き、小児病棟や外来で子どもと関わる看護師を対象に、プレパレーションの意義と効果、プレパレーションの実



際などを説明しました。単発の講義では、その後の評価ができないため、2013 年からは拠点を本学に置き、「滋賀子どものプレパレーション検討会」として、4 回 / 年のシリーズとして開催することにしました。主な内容は、プレパレーションに関する

学習と施設間の情報交換とし、学習会は、初心者が段階的に学べるようにプログラムを考慮しました。参加者は滋賀県内から広く参加者を募り、3～4 施設から各施設 2～4 名の参加となりました。

1 年間通して参加された後、今後も継続してプレパレーションを学習したいとの意見もあり、2014 年には 2 年目のコースをスタートしました。初心者のコースをビギナーコース、2 年目以降をアドバンスコースとして現在 3 年目を迎えます。

ビギナーコース全 4 回では、第 1 回プレパレーションとは、第 2 回プレパレーションに関する研究の動向、第 3 回プレパレーションに関する学生の学び、第 4 回活動報告をテーマとし、各回とも施設間の情報交換を行なっています。

参加者からはプレパレーションについて理解が深まり、他施設と情報を交換するこ



とで刺激になった等の声がきかれ、多くの方がアドバンスコースに進んでいます。アドバンスコースでは、ビギナーコースで学習した内容を発展させ、施設間で共有できるプレパレーションツールを作成したり、研究に取り組んだりと活動の幅を広げています。

「地域の看護職と共に歩む」

今後のプレパレーションの活動の展望をお聞かせ下さい

2015 年度は本検討会での活動及びアドバンスコースで作成した採血用プレパレーションツール (DVD) を日本小児看護学会第 25 回学術集会のテーマセッ



ションにおいて発表しました。テーマセッションの参加者は 100 名



程度であり、プレパレーションへの関心の高さがうかがえました。2016 年度はアドバンスコースメンバーが所属する施設で、メンバーが主体となって病棟でのプレパレーション学習会を開催し、その効果を論文としてまとめる予定をしています。また、今年度は、看護師以外の職種である医師、検査技師、保育士等との協働プレパレーションについても研究を進めていく予定です。

このように、本検討会は少しずつ軌道にのり発展してきました。今後も地域の看護職の方々と共に小児看護の質的向上を目指していきたいと考えています。

なお、本検討会平成 23～26 年度、平成 28 年度～31 年度科学研究費補助金 (基盤 C) の助成を受けて実施しています。また、検討会の企画・運営は滋賀県立大学人間看護学部の小児看護学領域と共に行なっています。



回	時期	テーマ	研究者からの情報提供
1	6 月	参加者の思い	- 子どもの権利について - プレパレーションの定義 - 母親が付き添う 2 歳児の採血場面の DVD 視聴
2	9 月	プレパレーションの実施状況と効果	「総合病院に勤務する看護師のプレパレーションの認知」に関する研究報告
3	12 月	プレパレーションを病棟に広める際の困難感	看護系大学の小児看護学で行うプレパレーションの講義紹介
4	3 月	検討会参加の振り返り	「総合病院で子どもの採血に携わる看護師の採血に関する認識」に関する研究報告



りゅうこう ち ゆ き
流郷 千幸

聖泉大学看護学部 教授 / 学部長
博士 (保健学)

〔専門分野〕 小児看護学

〔研究テーマ〕 採血を受ける子どもと親のストレス緩和

〔研究内容キーワード〕 子ども、採血、ストレス、自己効力感、看護介入

〔主な社会活動〕 「子どものプレパレーション検討会」ビギナーコース・アドバンスコースの開催

地域の課題と自分自身の学びをつなげる



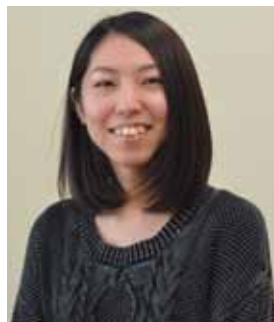
活動内容について

人間学部「臨床発達心理実習」という授業があるのですが、この授業では実習先を自分で決めます。私はそのとき医療領域に興味があったので、何件か病院にボランティアという形で活動させてほしいと問い合わせしてみたのですが、どれもダメでした。「医療領域で」ということにこだわりすぎ、他の実習先が全く思いつかず、どうしようか悩んでいる時、ゼミの谷口先生から「小崎さんが興味のある領域とは違うけど…」と、ご紹介いただいた先が学び育ち教室 Learning Links（以下、LL 教室）さんでした。

谷口先生と一緒に見学に行き、教室内の雰囲気がすごくアットホームな感じと、様々な事情を抱えた子どもたちが来ているので、心理学的な学びや気づきがたくさん得られるのではないかと思います。実習先を LL 教室に決めました。LL 教室で私は、約1年間サポーターとしてお世話になりました。

学内で受けた学びとこの活動の関係

LL 教室には、小学生から高校生までの子どもたちが来ており、それぞれの子どもたちにサポーターと呼ばれる学生・社会人ボランティアが一人または二人体制で付きます。サポーターの役割は、子どもたちと一緒に勉強したり、子どもたちがその日学校であった出来事・最近あった出来事などを聞くなど、様々です。また、子どもたちのサポーターは固定ではないため、週ごとに変わる場合もあります。そのため、教室終了後、サポーター同士がミーティングする場を設けられていました。ミーティングでは、その日自分がサポートした子どもたちの様子や、その子どもたちと関わって自分はどう感じたか、考えたか、また、子どもとの関わり方で困っ



人間学部 4 年生

お ざ き ゆ み な

小崎 弓菜

たことなどをサポーター同士で共有していました。

LL 教室でサポーターとして活動し、一番強く感じたことは、自分が関わっている子どもたちがその場でどんなサポートを求めているのかということ。常に考え、行動しなければならないということです。どの授業でも教えら



れていたもので、大事なことだということは頭にあり、実践できるものだと思っていましたが、実際現場に出ると、とても難しいものでした。また、子どもたちに対する私の関わり方の特徴や、自分の心理的課題にも気づくことができました。これらは、授業で週に1回設けられている実習活動報告会で、先生や履修している学生に報告し、アドバイスをいただくことで気づけたことです。今後臨床心理士を目指す私にとって、このような気づきはとても大きな学びとなりました。

今後の活動について

将来は臨床心理士を目指しているので、卒業後は大学院でさらに2年間専門的に心理学を学びます。医療領域に固執していた私ですが、LL 教室で活動したことで、今では教育領域にも興味があります。LL 教室の活動がきっかけで、様々な領域を体験し、いろいろと吸収することも大事だと考えるようになりました。LL 教室の活動で得ることができた学びをそのまま大学院の学びにも活かし、様々なボランティアにも参加し、将来自分が目指す臨床心理士像をつくっていきたいと思います。

保育園児を招待しました

活動内容について

看護学部2年次の小児看護技術論Iの授業では、「子どもの成長発達と遊びへの援助」を学ぶために近隣の保育園児30余名と遊ぶ「せいせんかんごあきまつり」があります。2年生84名がそれぞれのグループにわかれて、迷路や特大パズル、魚釣り等を考えました。

4歳から6歳の間でも園児は大きく成長発達しており、年齢から考える特徴だけでなく子どもの個性に合わせた遊びを考えました。園児が楽しめる内容か安全に問題はないか試行錯誤し、私たち皆が講義の合間を縫って2週間準備に励みました。様々な工夫を凝らすうちに準備が大変になり完成できるか不安になることもありました。しかし園児は遊びを喜んでくれ、園児間で思いやる様子を見ることができ私たち学生も達成感を味わうことができた。

学内で受けた学びとこの活動の関係

これまでの学内の講義では、4歳では片足とび5歳でスキップ6歳では縄跳びなどができ、園児が注意を維持出来るのは10～15分と学んでいました。遊びの中にルールが作られ自発的なゲームに変化し、価値を自分のものにするために模倣するようになるという特徴があります。そのことから園児は運動機能が発達している段階であり、遊びを通してさらに刺激したいと考えていました。そして園児間や園児と学生という他者の存在の中で遊びをして対人関係から社会性を養ってほしいとねらいにあげました。



看護学部2年生
すえよし さやか
末吉 紗也香



学内の講義で子どもの成長発達を学び、地域の子どもたちと実際に交流することでさらに学びを深めることができました。子どもの全体的な特徴だけでなく、一人ひとりの個性を知ること、幼児後期の具体的な像を捉えることができました。

今後の活動について

私たち学生がこのように日々勉学に励むことが出来るのも、地域の方々の連携と協力があるおかげだと考えています。今回の演習を通して地域の子どもたちと触れ合うことができ、私たちの中で新たな学びや創造性を高めることが出来ました。恵まれた環境で学び豊かな教養をつけ、今後も人間に対する理解を深めていきたいと考えています。そして地域に対し学生としてこれから何ができるのか考え、地域に繋いでいけるよう励んでいきます。

学生の 地域活動

(この1年)



参加事業	参加日時	参加人数	内 容
にじまつり（さわらび福祉会）	4/11	3	似顔絵作成
学園祭ボランティア（青い鳥会）	5/17	1	福祉コーナー補助など
かすみ会創立記念祭	6/6	5	ダンスショー
アートフェスタ（花しょうぶ通り）	6/6	30	テント設営・イベント補助
小学校行事（稲枝西小学校）	通年	7	クラブ活動支援
運動会補助（教育委員会）	8 月	2	養護教諭補助
彦根総おどり	8 月	60	彦根ばやしを踊る
出会いは宝 in 沖島（青年会議所）	10/17	11	子どもの引率・行事補助
定時制文化祭（長浜北星高等学校）	11/18	10	出演
高齢者地域ふれあい交流事業（豊郷町隣保館）	10/14	3	学校へ戻ろうプロジェクト

ボランティア活動 報告



地域の行事に参画して一員となる

「出会いは宝 in 沖島」

主催：一般社団法人 近江八幡青年会議所

日時：平成 27 年 10 月 17 日（土）

人間学部 4 年生

つかもと しゅうへい

塚本 修平

人間学部 4 年生

かたやま りょう

片山 亮

【活動を終えての感想】

【活動内容】

地域の子ども達と一緒に沖島に行き、沖島のことを勉強したり、自然体験活動を通じて子ども達と交流した。沖島に着くと島を散歩したり、沖島にあるお寺の住職さんから沖島のことを教えてもらいました。また、島のおばあさんが地元の食材で作ったお弁当を皆で食べたりしました。さらに地元の漁師さん達と一緒に地引き網を行い、捕れた魚で作った沖島よそのコロケをおやつに食べました。交流を通じて、多くの子ども達と話をしたり、他の大学のボランティアスタッフと話すことができました。

塚本：あんなに多くの子ども達と話をするのは初めての経験でした。子どもと交流するなかで言葉かけの重要性など子ども達から教えられたこともありました。また、滋賀県に住んでいながら、沖島に行ったのは初めてでした。自分からは行く機会がなかったので滋賀の新たな魅力を発見することができました。

片山：子ども達にはいろんな性格の子どもがいることを実感しました。子ども達と話すうちに子どもの方から近づいてきてくれて無邪気に遊ぶことができました。子ども達と話すうちに自分の子ども時代はどんなふうに過ごしていたか思いをはせることができました。

ボランティアの受け付けについて

大学では、学生を対象とした
ボランティア活動を推奨しています。

申し込み先 聖泉大学学生課

連絡先 Tel.0749-43-7512
Fax.0749-43-5201

大学から羽ばたき地域で活躍する卒業生【人間学部】

地域で育ち社会の一員へ



臨床心理士

やま だ ゆうすけ

山田 裕介

東近江少年センターあすくる東近江

来所される子どもの多くは警戒心が強く、なかなか信頼関係を築くことが難しい事も多いですが、何度も会っていくうちに固くなった表情が少し和らぎ、自分がどんな事を考えているのか、悩んでいるのかをぼつりぼつりと語ってくれるようになるように試行錯誤を繰り返す日々です。

今後の抱負・目標

聖泉大学での学びと仕事

聖泉大学では高橋啓子先生の指導の下、専門的な知識や心理士としての心構え、姿勢等の座学の他に、実際に小学校等へ赴き実演や発表等、学外での経験を積むことができました。実際に現場で活動することで、相談者が語る学校での様子がイメージしやすくなり、相談者に寄り添った支援ができるようになったのではないかと感じています。

また、他の講義でも心理学の幅広い領域を学ぶことができ、自身がどの領域に興味があるか、どの分野で活動していきたいかを考えるきっかけになりました。

少年センター『あすくる』では、「生活改善プログラム」「自分探し支援プログラム」「就労支援プログラム」「就学支援プログラム」「家庭支援プログラム」の5つのプログラムに基づいて支援を行っています。

仕事内容の紹介

私の主な仕事は来所される方の悩んでいる事、話したい事等について話を聞いたり、今後どうしていきたいかを話し合ったりする事が中心ですが、時には一緒に身体を動かして運動したり、就職の面接練習をしたりと、相手のニーズに合わせた支援を行っています。

この仕事を続けていて常々感じている事は、日々変化していく来談者の環境について敏感になり、学び続けていかないといけないという事です。少年非行は、常に時代を映す鏡であると言われています。そのため、社会の変化に伴い変化する非行行動に沿った支援を考えていく必要があります。

近年の技術の発達にはめざましものがあります。目まぐるしい発展に対し敏感に理解していかなければ、それらに伴って生まれてくる新たな問題に対して十分な対処ができなくなるかもしれません。

それらの問題に柔軟に対処し、子どもたちが輝かしい未来を歩んでいけるように日々学び続けていきたいと考えています。



支援コーディネーター

こにし はる じ

小西 春治

東近江少年センターあすくる東近江

ストレス社会が蔓延する時代の中で、当少年センターにおいても心の問題や多様な課題を抱えた子どもたちが訪れ山田心理士にお世話になっています。専門的な技法で子どもたちを理解し共感されるなかで、一人歩きできる子どもたちへと導いていただいています。また、カウンセリングのみならず体験活動を共にしながら子どもたちに寄り添っていただいています。

大学から羽ばたき地域で活躍する卒業生【看護学部】 地域で育ち社会の一員へ



看護師
あしだ ゆうこ
芦田 裕子
公益財団法人豊郷病院

聖泉大学での学びと仕事

患者さんの中には退院後も看護が必要な人、デイサービスなどの施設を利用される人など、いろんな職種が関わっていくことが必要な人もいます。大学で看護技術だけでなく様々な領域の看護を学んだことで、入院中から患者さんのことを相対的に観て、どのような看護をしていけば良いのか、退院後の生活を想像してどんな関わりをしたらADLが向上するかを考えながら働くことができてきたと思います。

仕事内容の紹介

私は今、回復期リハビリテーション病棟に勤務しています。この病棟に入院されるのは脳血管疾患、大腿骨・骨盤・脊椎の骨折などの方です。入院して集中的にリハビリを行い、在宅復帰を目指しています。急性期のように状態の変化が激しいわけではないので、点滴などの専門的な処置を行うことは少なく、更衣や移乗移動などの生活援助を行うことが主体となった看護をしています。しかし、患者さんは様々な既往歴のある方々のため、観察しなくてはいけないこと、初めて行う処置がたくさんあります。新たな処置を行うときには戸惑いがありますし、急変が起こったときに何を観察するのか、どう処置を行ったらいいかを即座に判断しなくてはいけないことはとても大変です。そのようなときには先輩看護師に確認をしながら行うようにしています。

この病棟は30床が定床のため、患者さん一人一人との関わりが深くできます。体調を確認するだけでなく色々な会話をすることができ、信頼関係を築くことができることがとても楽しいです。また、入院されたときには麻痺のため自分で動くことができずおむつ対応をしていた患者さんが、リハビリで動けるようになりトイレに行けるようになるなど、どんどんADLが上がっていく患者さんを見ていると働いていて良かったと感じます。

今後の抱負・目標

私の今後の目標は、患者さんに寄り添った看護のできる看護師になることです。それにはまず患者さんの状態を観察することです。今は急変に遭遇した時に自分一人では判断することが難しいですが、夜勤では看護師1人、ケアワーカー1人体制のため自分が判断しなくてはいけない場面も出てきます。観察と知識を身につけていきたいです。あとは在宅復帰を目標にされている方が多いので、患者だけでなく家族の思いを良く聞くこと、援助の際にもできるだけその方の力を引き出してADLが向上するような関わりができることを目指していきたいです。

先輩から一言 回復期リハビリテーション病棟棟長兼看護副部長
とがわ えい こ
外川 栄子 公益財団法人豊郷病院

卒業して1年が経ちました。どんな1年でしたか？振り返ってみてください。芦田さんが内科病棟そして、回復期リハビリテーション病棟へ配属された日の思いを。不安もいっぱいある中、これから経験する多くのことに、期待に胸がいっぱいだったことと思います。私から見た芦田さんを率直に言いますと、出会った第一印象は、「どうしたのかな？笑顔忘れてるよ」という感じでした。あれから半年、数えきれないほど苦しかったこと、つらかったことあったと思います。でもそれ以上に楽しかったこと、うれしかったことがたくさんありましたよね。努力されました。そして、患者さんからもいっぱい力もらいましたよね。今の芦田さんは、「本当に楽しく仕事をしている。患者・家族さんとはもちろん、スタッフともよく話ができるようになった」と思います。笑顔もよくみられるようになりました。初心を忘れず今の気持ちを大切に、これからも看護に誇りを持ち看護師を続けてください。

平成 27 年度第 1 回公開講座

ナイチンゲールの看護思想

日時：平成 27 年 6 月 20 日（土）13：30～15：00

場所：聖泉大学講義室 455

講師：聖泉大学看護学研究科 城ヶ端初子教授

参加者数：99 名



今、ナイチンゲールから学ぶもの

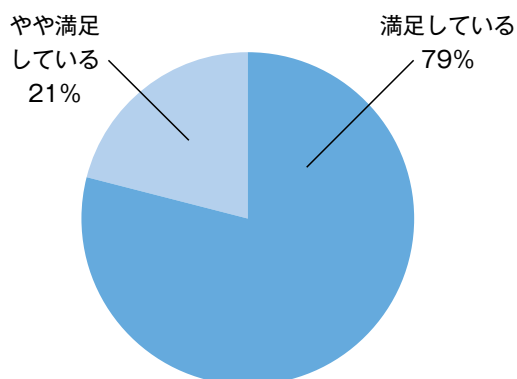
【講座内容】

近代看護の基礎を築いたフローレンス・ナイチンゲール（Florence Nightingale, 1820～1910）の看護理論は、看護理論の基礎となっています。「白衣の天使」や「看護覚え書」など多くの方がナイチンゲールをご存知かと思うが、その実像は知られていないことも多くあります。この講座では、ナイチンゲールの生きた時代背景、臨床現場での活動、ナイチンゲールの看護思想を通し、環境と人間の健康状態の視点より、病気の予防、健康の保持増進、病気からの回復に、看護者が環境を調整する役割の重要性が説かれました。

我々を取り巻く環境が大きく変化している現在、看護の原点であるナイチンゲールの思想を学び、今、看護職に何が問われているのかを再考するきっかけとなりました。



アンケート結果（講座内容について） N80



●アンケート自由記述（抜粋）

- ナイチンゲールから学ぶべきものが多く、自分では考えられないような看護論を聴くことができました。
- 改めてナイチンゲールの考えを知り、知らなかったこともあり、学びを深めることができた。また、看護は素晴らしい職業だと思えることができました。
- 施設外での看護師として訪問看護を行っていく中、環境などをどのように整えていくのか、もう一度看護の原点を振り返ることで、生命力を維持できることを問いかけていきたいです。

平成 27 年度第 2 回公開講座

地域包括ケアを進めるために

日時：平成 27 年 8 月 8 日（土）13：30～15：00

場所：聖泉大学講義室 455

講師：日本看護協会常任理事 勝又浜子先生

参加者数：151 名



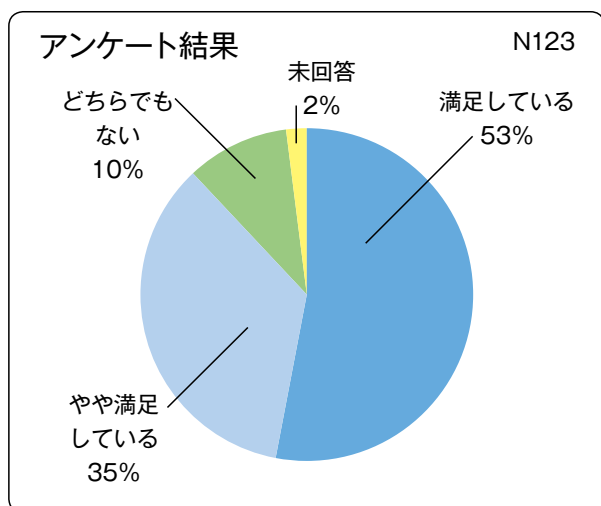
医療福祉介護職員の担うべき役割

【講座内容】

2025 年には団塊の世代が後期高齢者になり、地域包括ケアの推進が喫緊の課題になっています。

この講座では、医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律（医療介護総合確保推進法）、病床の機能分化、医療従事者の確保、養成、在宅医療・介護の推進について、詳細にわかりやすく解説され、滋賀県の地域医療構想の策定についての内容も盛り込まれました。

今後の地域医療介護福祉を進めるために、医療福祉関係者のみならず、地域住民の互助のしくみやソーシャルキャピタルの醸成が重要であること、県内医療福祉介護関係者がこうした 2025 年問題に対し、どのような役割を担っていけばよいのかを考える機会となりました。



●アンケート自由記述（抜粋）

- わかりやすい言葉で説明いただき、現在の国の動きや制度について理解することができました。東京での先進的な取り組みについても知ることができました。
- 日本全国で実際にされている会議、ケアなどのお話を聞かせていただき、もっと地域でされていれば在宅での生活が充実するのではないか、病院に駆け込むようなことが少なくなるのではないかと考えさせられました。すぐには無理ですが、少しずつサービスが充実すればいいなと聞かせていただきました。

平成 27 年度第 3 回公開講座

子どものあそびについて 遊びの具体例としてのあそび

日時：平成 27 年 10 月 3 日（土）13：00～16：00

場所：大学サテライトプラザ彦根

講師：大須賀貴幸（日本カロム協会） 炭谷将史（聖泉大学人間学部准教授）



子供の遊びを学ぶ

【講座内容】

本講座では子供の遊びの現状を認識し、いまの時代に合った子供の環境作りについて考え、さらに彦根市に伝わる伝承遊びである「カロム」の面白さを再認識することを目的としました。

第 1 部では「子供の遊びとエビデンス」として炭谷講師が子供の遊びの現状について解説し、生態心理学の視点から子供の遊び環境のあるべき姿、何をどう変えたら良いのかについて研究から明らかになりつつある仮説的知見をお話されました。

第 2 部では、日本カロム協会大須賀講師がカロムの歴史やなぜ彦根にだけ残っているのかについてレクチャーをし、その後様々な遊び方を参加者とともに実践しました。第 2 部からは 4 名の小学生が参加し、他の参加者とともにカロムを楽しみました。



●講座風景

●座学では保育士から現在の子どもおよび保護者の特徴を踏まえた質問が出され、非常に活発な意見交換が行われました。また、第 2 部では小学生が参加したことから、子供から大人までが一緒に楽しめる遊びであることが体験的に理解されました。講座終了後に小学生から保護者に対して購入したいという希望が出されていました。

平成 27 年度第 4 回公開講座

ツレがうつになりまして

日時：平成 27 年 11 月 22 日（日）13：30～15：00

場所：聖泉大学講義室 455

講師：細川紹々・望月昭 ご夫妻

参加者数：175 名



ツレがうつになりまして

【講座内容】

映画やドラマにもなった「ツレがうつになりまして。」の著者である細川紹々・望月昭さんご夫婦をお招きいたしました。

この講座では、望月昭さんがうつ病を発症してから現在までご夫婦が体験された苦悩や葛藤、そしてこれからの生活についてのトークショーでした。

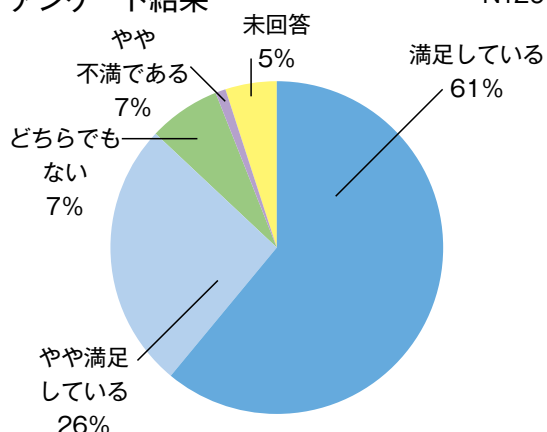
当初、うつ病に対する認識の違いや、その違いに夫婦が向き合ってお互いを認め合った経緯、そして夫婦がうつ病の治療、また子育てに対して夫婦の役割を確認するに至るまでの経緯を語っていただきました。

たとえ夫婦であってもカーテンを一枚隔てた所に居るのがちょうど良い距離であり、相手の領域に入りすぎないことやそれぞれの目標に向かって生活していく必要性を改めて考えさせられた講座でした。



アンケート結果

N129



●アンケート自由記述（抜粋）

- 貴重な経験をお話いただき、自身の経験と合致するところもありました。今後の生き方に大いに勉強になりました。
- ご夫婦の空気感がよく伝わってきた。「子育てと逆の接し方」という話、なるほどなと思いました。わかりやすくおもしろかったです。
- 考え方、相手に対する向き合い方を知ることができました。いろいろな情報がある中で、当事者の体験を聞けてよかったです。
- 身近な人でうつ経験をした人がいて、その人がかかえていたやみが少しはわかった気がした。

平成 27 年度第 5 回公開講座

世界と戦うジュニア日本の育成

日時：平成 28 年 2 月 27 日（土）13：00～16：00

場所：聖泉大学講義室 455・人工芝グラウンド

講師：第一部：講演「山堀流世界と戦えるホッケー日本代表選手の育成メソッド」山堀貴彦

第二部：実践「フィールドプレーヤートレーニング方法」山堀貴彦

実践「ゴールキーパートレーニング方法」宮崎奈美

参加者数：56 名



世界と戦える ホッケー日本代表選手の 育成メソッド

【講座内容】

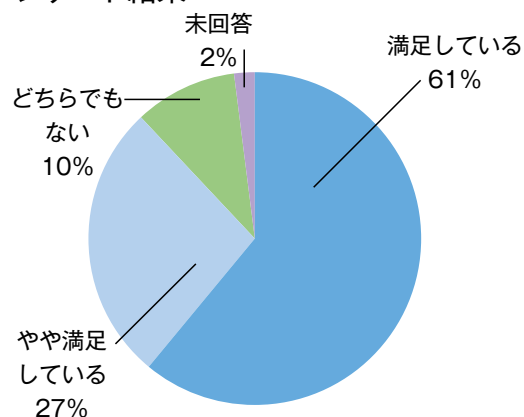
2020 年の東京オリンピックや 2 巡目の滋賀国体を見据え、ジュニア世代のコーチングやトレーニング方法を知り、日本ホッケーの更なる発展や普及を促すことを目的に開催されました。第一部では、山堀講師が考える理想の選手像や世界と戦うための選手の心構えについて講演されました。また、山堀流トレーニングとして走るだけのトレーニングは極力行わないなどの説明をされました。

第二部では、山堀講師によるフィールドプレーヤーのためのトレーニング方法、ならびに宮崎講師によるゴールキーパーのトレーニング方法について実技が行われました。参加された方は、走力と状況判断を同時に高める簡易ゲームを行ったり、キーパー独自のトレーニング方法を実践されたり、熱心に受講されていました。



アンケート結果

N49



●アンケート自由記述（抜粋）

- 選手の立場や指導者の立場から話されていて非常に分かりやすかった。(20 代男性)
- 世界との差、ホッケーだけでなく、サッカー、野球でも、基本スキルの違いが大きかった。(50 代男性)
- 世界との戦い方、日本との違いを聞いたこと満足です。今後、日本代表の練習などを動画配信していただきたいと思います。(30 代男性)
- 体カトレーニングを兼ねた練習を実際に見られて、とても良かったです。(40 代男性)
- ゴールキーパーの指導者は少ないので良かったです。(20 代男性)
- ホッケーの体力はホッケーで！その練習メニューが参考になりました。(30 代男性)

大学附属施設の機能・概要

図書館

図書館は、学術に関する研究・学習の目的をもって、本学図書館のサービスを必要とされる方であれば、どなたでも利用できます。公共図書館とは少し異なり、身近な内容の図書というよりも、聖泉大学の学科（人間心理学科・看護学科）に関する専門的な図書・雑誌、その他資料を有するのが特徴で、各専門領域に関する図書、雑誌の類は大体揃っていて、開架式で、手に取って眺め吟味し、閲覧室で読み調べたりできます。また、データベース（医中誌 Web、CiNii、CINAHL 等）と電子ジャーナルや雑誌（冊子体）をつなげるシステムの SFX（リンクリゾルバー）により、全国の大学図書館で所属している図書・雑誌の最新情報が検索でき、本学図書館を通して図書を借り出したりコピーを入手したりできます。詳しくは本学ホームページをご覧ください。



連絡先

Email: library@seisen.ac.jp

カウンセリングセンター



現在の社会は情報化の進展と物質的豊かさにより、人間にもたらされる精神的なひずみからくる「心の問題」が指摘されるようになってきました。特に、社会的に孤立したり閉鎖的な心の状況にある人に対して、心の支援をする必要が強く求められています。聖泉大学では、平成 15 年に人間心理学科を設置して以来、地域に開かれた相談室としてカウンセリングセンターを設け、ご相談を受け付けております。ご相談は本学の臨床心理士が担当し、秘密は厳守いたします。どうぞ気軽にお越しください。

連絡先

Tel.0749-43-7623 Fax.0749-47-8047

国際交流センター

国際交流センターは、平成 25 年度に設立された新しい組織です。主な事業は、本学学生の異文化交流事業および海外の大学との連携事業です。異文化交流事業では、ミシガン州立大学連合センターが主催する英語づけプログラムへの参加補助を行い、学生が留学等の国際進出の第一歩を踏み出す活動のサポートをしています。また、海外の大学との提携事業では、中国との連携を中心に進めており、現在 12 の大学との連携を進めています。現在は主に中国人留学生の受け入れを行っており、学内の国際化につながっています。

滋賀県内に居住する外国籍の方々との交流などのご要望があれば下記にご連絡ください。

連絡先

Tel.0749-43-7512 (学生課) Email: kokusai@seisen.ac.jp



学部附属施設の機能・概要

看護学部看護キャリアアップセンター



聖泉大学看護キャリアアップセンターは、地域の医療、教育の発展と向上のための看護研究や講座の場、また保健医療福祉・教育現場の相互交流の場としての役割を担うことを目的に2011(平成23)年、看護学部開設と同時に設置され6年目を迎えました。当センターでは、次の事業を行っています。

- ① 看護の質の向上を目指し看護研究をテーマとした講座の開設
- ② 地域の医療関係者、看護教育関係者の研究のサポート
- ③ 地域の医療関係者、看護教育関係者との共同研究
- ④ 地域医療の向上のための研究・調査に関する事業
- ⑤ 当大学卒業生の研究、研修のサポート
- ⑥ その他、センターの目的達成のために必要な事業

特に力を入れている事業は、看護の質の向上を目指し、**看護研究をテーマとした【キャリアアップ講座】**であります。研究の進め方、文献検索、研究方法、データ分析、まとめ方と発表、研究相談までを〈ホップ〉〈ステップ〉〈アップ〉〈サポート〉として、4回(4日間)開講し、全て受講した方に修了証を交付しております。加えて特別講座〈ジャンプ〉として、統計解析を中心としたレベルアップ講座の開設や研修後も引き続いて研究の質問や相談ができる道を開いています。

また、第2期生までが卒業しましたので、**卒業生研修会**も開催いたしました。当センターがより一層、目的に向けた役割を果たしていけますよう、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。詳細はホームページをご覧ください。

連絡先 E-mail: kango-career@seisen.ac.jp

人間学部附属スポーツ・身体運動支援センター

スポーツ・身体運動支援センターは、平成20年に前身スポーツ文化研究所として設立され(平成26年4月より改名)、以来2つのねらいを達するべく活動を展開してきました。

- ① 聖泉大学が有するスポーツや健康づくりに関する資源を活かした地域住民のQOLの向上
- ② 聖泉大学が特別支援する3つの部活動
(男女ホッケー部、女子サッカー部)の活動充実

具体的な活動としては、近隣の幼稚園児・小学生を対象とした運動・スポーツ活動のサポート、高齢者の自主サークルのサポート、県内機関との共同でのイベント実施などです。

特別支援クラブは、設立より8年が経過し、女子ホッケー部は平成25年には全日本学生選手権大会(インカレ)で全国3位、平成27年シーズンより日本リーグに参戦、男子ホッケー部は平成27年シーズンに全日本大学王座選手権大会でベスト8に進出するなどの活躍を見せている。女子サッカー部は、卒業生がなでしこリーグで活躍したり、現所属選手が関西学生選抜で日本一を獲得するなど、個々の選手の活躍が目覚ましい。

健康づくりや各種スポーツ活動の指導等が必要な場合は、下記に連絡をしてご相談ください。

連絡先 Tel.0749-43-3600(大学代表) Email: sports@seisen.ac.jp



平成 28 年度事業計画

1. 公開講座

テーマ「高齢者と介護者の“こころと身体”の健康講座」

期 日	時 間	講座名	講 師
平成 28 年 6 月 25 日 (土)	13:30 ~ 15:00	楽しく歳を重ねるコツ ～高齢者の身体の特徴と地域における取り組み～	多胡陽介 (人間学部講師) 安孫子尚子 (看護学部講師)
平成 28 年 8 月 20 日 (土)	13:30 ~ 15:00	身近な人が認知症になったら	安田千寿 (看護学部准教授)
平成 28 年 11 月 20 日 (日)	10:30 ~ 12:00	介護者の生きるイメージ ～超越性と現実性～	新美秀和 (人間学部准教授)

受講料無料 定員100名

2. 地域で活躍するリーダー養成シリーズ ～初級編～

テーマ「健康づくりリーダー養成」 **3回シリーズ**

トータルコーディネーター多胡陽介 (健康運動指導士)

回	期 日	時 間	講座名	講 師
1	平成 28 年 9 月 10 日 (土)	10:00 ~ 12:00	体力測定と健康診断 ～自分の健康状態を詳しく知ろう～	間文彦 (看護学部准教授) 中島真由美 (看護学部講師)
2	平成 28 年 10 月 8 日 (土)	10:00 ~ 12:00	ノルディック・ウォーキング体験	多胡陽介 (人間学部講師)
3	平成 28 年 11 月 26 日 (土)	10:00 ~ 12:00	運動と心の健康 ～簡単な音楽体操やレクリエーション活動を通じて～	炭谷将史 (人間学部准教授)

受講料1回500円 定員30名 修了証 3回全て出席された方には修了証を発行します

お申し込み・お問い合わせ

聖泉大学 地域連携交流センター 公開講座係

〒521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720 番地

Tel.0749-43-7510
Fax.0749-43-5201

E-mail renkei@seisen.ac.jp
URL <http://www.seisen.ac.jp/>

聖泉大学地域連携交流センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、聖泉大学地域連携交流センター(以下「センター」という。)の管理運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、地域連携及び産学連携の総合窓口として、地域住民、NPO、行政、医療機関、企業等との連携を深め、本学が有する人的資源及び教育研究成果を広く地域に還元するとともに、地域文化・社会の発展に寄与することを目的とする。

(任務)

第3条 センターは前条の目的を達成するために次に掲げる業務を行う。

- (1) 地域社会の諸活動に対する専門的な支援や地域課題に係る調査研究の調整、受け入れに関すること
- (2) 地域連携及び産学連携等に係る受託研究、共同研究、奨学寄附金に関すること
- (3) 地域連携及び産学連携等に係る人的交流、情報収集及び発信に関すること
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事項

(センター長)

第4条 センターにセンター長を置き、学長が任命する。

2 センター長は、センターを統括し、これを代表する。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は前任者の残任期間とする。

4 センター長は、必要と認めた者をセンターに置くことができる。

(委員会)

第5条 センターの運営及び事業に関する具体的な事項を審議するため、センター委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 各学部から教員2名
- (3) 事務部長または事務次長
- (4) 兼任教員
- (5) その他、センター長が必要と認めた者

3 前項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

(兼任教員)

第6条 兼任教員は本学の教員のうちから当該所属の学部長の同意を得て、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は1年以内とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は当該年度を超えないものとする。

(委員長)

第7条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は委員会の会務を総理する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

第8条 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

(事務)

第9条 センターに関する事務は、事務部長が指名する所轄部署において行う。

(委任)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターの運営等に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

(規程の改廃)

第11条 この規程の改廃は、教育研究評議会の審議を経て学長が行う。

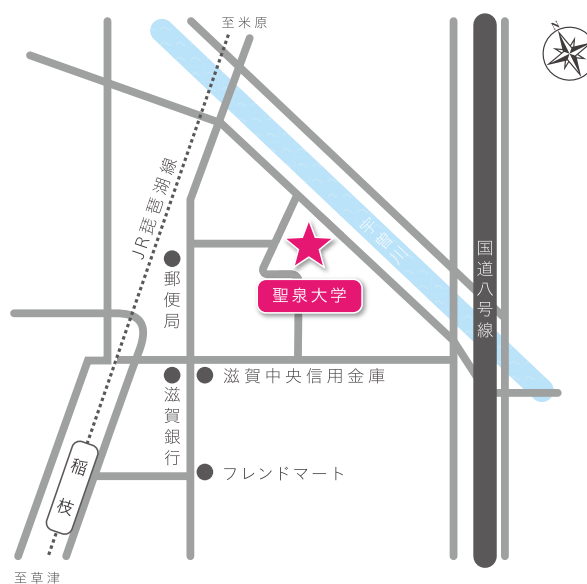
附則

この規程は、平成25年5月1日から施行する。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

大学周辺マップ



〈駅からのルート〉

- J R 稲枝 駅から徒歩約15分 ● J R 稲枝 駅からシャトルバス約3分

学校法人聖泉学園
聖泉大学 地域連携交流センター

〒 521-1123 滋賀県彦根市肥田町 720 番地

Tel.0749-43-7510

Fax.0749-43-5201

HP.<http://www.seisen.ac.jp/>

E-mail.renkei@seisen.ac.jp

発行日 2016 年 6 月



聖泉大学 地域連携交流センター